

# Create

2017. 11. 24  
No.2

11月9日（木）に第2回全校授業研究会（小学部授業提示）が行われました。今回は、授業研究会のグループ協議の中で出た意見の一部を紹介します。

小学部1～6年 遊びの指導 「い～なランドで遊ぼう②～いろいろな遊具、素材で遊ぼう～」  
小学部19名（1年4名、2年3名、3年2名、4年6名、5年2名、6年2名） 授業者：今川美、他

トランポリン、ボールプールなどの大型遊具やままごとコーナー等を設定して行った「い～なランドで遊ぼう①」に続く題材。今回は、児童が遊びを発展させたり、自分から好きな遊びを選んだりできるように、レストランや公園、友達や自分の家などをイメージしたコーナーを新しく設定した。また、レストランコーナーで見立て遊びができるように、新聞紙や広告紙、お花紙などの素材も準備した。この日の授業では、体育館と音楽室を使い（※配置図参照）、レストランごっこ、ままごと、サーキット遊び、ボールスライダー遊びなどの活動を行った。



授業研究会では、以下の協議題と参観の観点のもと、抽出児童3名について協議を行いました。

**協議題** 「児童が主体的に物や人と関わるための支援について」

**参観の観点**

○観点Ⅰ：児童の学習の様子について

- ・目標を達成できていたか。

○観点Ⅱ：教師の支援と環境の設定について

- ①教師の支援：各コーナーの遊び方や関わりを広げる支援であったか。
- ②環境の設定：遊びや関わりを促す遊具であったか。また、それらを促す遊具の配置であったか。

## ○抽出児童3名の本題材、本時の目標と教師の手立て（学習指導案より抜粋）

	本題材で期待する姿	本時の目標	本時の目標を達成するための手立て
A さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達からの誘い掛けを受け入れ、仲良く遊んだり、自分から働き掛けたりする。</li> <li>・友達の遊ぶ様子を見たり、教師の誘い掛けを受けたりしながら、未経験の遊びにも挑戦し、遊びの経験を増やす。</li> </ul>	ままごとコーナー（い～なさんのいえ）で、友達や教師と料理を作ったり食べたりして遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本児の興味のある調理道具や玩具の食べ物を準備する。</li> </ul>
		友達の遊ぶ様子を見てまねをしたり、誘い掛けに応えたりして遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の遊ぶ様子が分かるように、「○○さんは△△しているね」等、周囲の様子を話す。</li> </ul>
B さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関心のある遊具や素材を選び、教師や特定の友達の近くに行き、同じ物でまねして遊ぶ。</li> <li>・交代や遊びのルールが分かり、友達と一緒にの場所で仲良く遊ぶ。</li> <li>・教師の誘いを受けて集団の中に入り、友達と同じように片付けをする。</li> </ul>	レストランコーナーで、友達と同じ場で料理を作ったりテーブルに運んだりして遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と同じ場所で遊べるように、制作場所に大きいテーブルを置き、材料や道具を複数準備しておく。</li> <li>・店員役になって遊べるように、お客様役になって注文したり、食材を受け取ったりする。</li> </ul>
		い～な公園コーナーで、ルールを守って、友達と一緒にの場所で遊ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険な遊びをしているときは、「ぶつかるおけがをするよね」等と理由を伝える。</li> <li>・友達と交代しながら遊べるように、「次は○○さんだね」と伝え、「今度</li> </ul>

			は、何で遊ぶ？」と問い掛け、次の遊びに誘う。
C さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達や教師とやりとりしながらごっこ遊びを楽しむ。</li> <li>教師や友達の様子を見てまねをしたり、誘いを受け入れたりして時間いっぱい遊ぶ。</li> </ul>	レストランコーナーで店員になり、友達や教師とやりとりしたり、料理を運んだりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達が注文を待っている時は「〇〇さんに注文を聞いてこよう」と言葉を掛ける。</li> <li>お客役になり、メニュー表を見て注文をしたり料理を食べたりしてやりとりする。</li> </ul>
		友達の遊ぶ様子を見てまねをしたり、誘いを受け入れたりして遊ぶ。	友達の遊んでいる様子を見ている時は「一緒にやってみる？」と言葉を掛けたり、友達から誘いがあった時は友達が使っている道具や素材と同じ物を手渡したりする。

### ○グループ協議から

	児童の様子 (☆達成できていた点)	教師の手立てやアプローチ (☆良かった点、●改善点と改善案)
A さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆Dさんを真似たり、真似をしあったりして一緒に遊んでいた。</li> <li>☆ままごとコーナーで友達と一緒に料理を作ったり、作った料理を教師に持って行ったりしていた。</li> <li>☆Dさんとボールスライダーで遊んでいた。</li> <li>☆段ボールの家でかくれんぼをしていると、そこにDさんが来て見つけようとしていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆目標を達成するために、<b>様々な遊びを展開できるコーナーの設定</b>が工夫されていた。</li> <li>☆他児との仲立ちをする時は側にいる、友達と一緒にの時は離れて見ているなど、<b>児童との距離</b>が良かった。</li> <li>●(教師の支援について) 子ども同士をつなぐ支援として、やりとりの仕方、表情、気持ちを<b>言葉で大人が代弁してあげる支援</b>が必要ではないか。</li> </ul>
B さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆レストランコーナーで、黄色の紙でポテトを作り、赤い袋に入れ、電子レンジで温めていた。</li> <li>☆友達と一緒にテーブルで、本当にうどんを食べるように、うどんを食べていた。隣にいた教師に食べさせていた。</li> <li>☆席を取られても怒らずに待っていたり、席を譲るようにアピールしたりしていた。</li> <li>☆Cさんが電子レンジを使う様子を後ろからじっと見ていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆レストランコーナーにシュレッダー(麺作り)やはさみ(ポテト作り)などの、本児の<b>好きな道具</b>が準備されていた。</li> <li>☆<b>身近な道具</b>が準備されており、友達が使う様子を見て覚えようとする様子が見られた。</li> <li>☆<b>教師の言葉掛けや見守り、誘い</b>で安心して関わることができていた。</li> <li>☆Cさんの電子レンジの様子を見ているときに、すかさず「やってみる？」の言葉掛けがあり、<b>遊びたい気持ちを後押しする支援</b>が良かった。</li> <li>●(教師の支援について) 「おいしいね」「うどん、全部食べたね」など、<b>教師が状況や場面、気持ちを言語化</b>する。</li> </ul>
C さん	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆教師に注文を聞いたり、Eさんからの注文を受けて、「これ」と選んだりして遊んでいた。</li> <li>☆真っ先にレストランコーナーに向かい、エプロンを着けて、テーブルのお客さんと遊んでいた。</li> <li>☆レストランコーナーで友達や教師に料理を提供していた。</li> <li>☆ポテトの注文を受けて自分で容器を準備して盛り付けも最後まで真剣にやっていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆友達や教師と<b>自然にやり取りができる</b>、レストランの<b>設定</b>(エプロンやメニュー、めん製造器など)が良かった。</li> <li>●(教師の支援について) 友達との関わりがもっと多くなるように、教師が児童の間に入って、<b>つなぐ支援</b>をする。</li> <li>●(環境の設定について) 「レストランから、い～なさんの家へ宅配」する場面を設定するなど、<b>遊びを発展させていく工夫</b>をする。</li> </ul>

### (全体を通しての改善点と改善案)

- ・レストランコーナーで、作る遊びがもっと楽しくなるように、アイスやラーメンなどのレシピを準備する。
- ・これまでの遊びの様子を児童が振り返れるように、遊びの様子を廊下に掲示する。
- ・「い～なやすみ」コーナーで安全に遊べるように、教師の配置を変える。

○指導助言（秋田県教育庁特別支援教育課主任指導主事 近藤千晴先生より）

- 授業が終わったら、すべてを片付けて無くしてしまうのではなく、遊びの痕跡を少し残しておくことで次時の遊びにつながっていく。
- 児童の遊びへの思いを育てることが大切。児童を遊びの場作りから関わらせていくことも有効である。
- 遊びの素材や道具等の環境の設定において、児童自身が遊びを工夫できる余地を残しておくことで、遊びが広がっていく。

※配置図

